



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校

令和2年 3月16日

“元気” “本気” そして”感謝”

校長 菅原 透

新型コロナウイルスの影響で、3月2日から休校措置となり、3月の教育活動は中断。子どもの安否等に最大限配慮し、締めくくりの最終週を迎えることができました。278名の子ども達と会えないのはこれほどさみしいことなのか…、担任や子ども達はそれ以上の思いを持っていることでしょう。この間、お家の方々、地域の皆様から多方面で支え続けていただきました。改めて感謝申し上げます。

休校が突然決まった2月28日。6年生と5年生からお手紙をいただきました。担任の指導と心配りのもとで行われたことだと思いますが、それぞれの思いが伝わってきて、心がほっこりと和みました。

5年生は、毎朝あいさつ運動を共に行った計画委員のメンバーから。私の姿を「元気なまんめんの笑顔」「迫力のあるみんなが元気になるあいさつ」と評してくれました。「毎朝いただいたアドバイスは次の日の目標となり」「これからもよろしくお願いします」…。6年生になるという自覚が感じられ、頼もしくなりました。

6年生は4名のメンコちゃんから。「校長先生が明るくしている所を見てすごく元気になることができました」「校長先生が来てからあいさつの声がよくなりました」「元気に大きな声であいさつすること

ができました」「毎日朝早くからげんかんに立ってあいさつしてくれてうれしかったです」。自分の姿から何かを感じてもらえればいいなと願っていたことが、子ども達の言葉として伝えられたのは感動です。涙が出そうでした。そして、「元気、本気、あいうえお名人というめあてを持ち、この1年がんばってきました」とあったのです。校長の言葉が子ども達の意識の中にこれだけ入っていたことに、この上ない嬉しさを感じました。子ども達自身、このことをがんばったと言える自負は、この後の自分を成長させる大きなエネルギーと自信になることでしょう。

1～5年生とは会うことができない学年末。でも、みんなすごい成長を遂げて、それぞれの学年を修了することができました。私は、毎朝のあいさつと握手で、それを実感することができました。

そして6年生。18日に巣立ちの時を迎えます。在校生がいない中での式典になりますが、47名の門出にふさわしいあったかい式にしたいと考えています。言葉は届きませんが、地域あげて「おめでとう」の気持ちを持ち、この瞬間をお過ごしください。皆様にはこの1年間、力強いご支援を学校経営に賜りました。心より感謝と御礼を申し上げます。